

平成19年度第5回 緑区地域福祉計画推進協議会 議事要旨

1 開催日時

平成20年2月9日(土) 14:00～16:10

2 出席者

緑区推進協議会委員(以下、委員):(出席委員14名)

岡本委員長・秋山副委員長・田宮副委員長
新井委員・岩瀬委員・大槻委員・大土委員
鴨委員・桑原委員・篠原委員・竹内委員
武村委員・平山委員
中村委員(吉田委員の代理)

(欠席委員 6名)

石井委員・金井委員・手塚委員
徳田委員・豊田委員・本田委員

傍聴人:なし

<事務局>

緑区役所 : 中田区長
緑保健福祉センター : 岡本所長
保健福祉サービス課 : 中尾主幹・神代主任主事・宮間主任主事
千葉市社会福祉協議会 緑区事務所 : 御園所長・高吉主任主事
千葉市保健福祉局 : 大西次長
保健福祉総務課 計画調整班 : 半澤主査・星谷主事

3 開催場所

緑保健福祉センター 2階 大会議室

4 議事

- ・委員長挨拶
- ・中田区長挨拶

委員長作成の「緑区地域福祉計画推進協議会 会報NO10」「資料1」
を基に議事を進める。

- ・議題(1) 委員自己(活動)紹介(2名)

A 委員：私は、民生委員とおゆみ野地区部会の役員を兼務しています。

おゆみ野地区では、町内自治会への加入率が40%以下のため、まずは、自治会員数を増やし、加入率を上げることが大切だと思っています。
また、地域内でのボランティア活動をどう広めていくかが、今後の課題の1つだと考えています。

委員長：私は、緑町小学校の校長を退職した後、中国の天津日本人学校校長を3年やっていました。

千葉市のことぶき大学校の設立当初から関わり、現在は、幼稚園の園長をやっています。

毎週水曜日は、椎名小学校で、児童に10分程度の漢字パワーアップの指導を行っています。県・市ユネスコの活動に参画しています。

・議題（2） 広報紙（第5号）の発行について（資料2）

広報部長：「広報紙みどりのきずな第5号（3月1日発行）」の案ができましたので誤字などを確認して下さい。今回は、今年度の各地区のパイロット事業の写真を4枚掲載しました。

委員：裏面の「さくらさくさく」の「大人も子どもも・・・」のところの行を変えて、もうすこし読みやすくしたらどうですか。

広報部長：分かりました。

委員長：今回（第5号）の紙面で取り上げた子どもたちによる一人暮らしの高齢者に対する福祉活動ですが、千葉市でもモデル事業として一部の地域で開始したと聞きました。これについて事務局よりご説明いただけますか。

次長：大宮台団地で自治会等の協力のもと行っています。小学6年生が登校時に「あいさつしたり、ゴミ出しを手伝ったり」して高齢者に対する福祉活動を行っています。始まったばかりなので、お年寄りの方もまだ遠慮があるような状況です。

委員：「創造の杜」の「杜」にふりがなを付けたらわかりやすくなると思いますが。

広報部長：分かりました。

・議題（3） 緑区地域福祉計画等の推進について

委員長：椎名地区部会のパイロット事業の報告を予定していましたが、当該委員が欠席のため、今回の推進協だより（第5号）での掲載記事をもって、かえさせていただきたい。

委員長：次に、各団体等の福祉活動について、お手元にあります「千葉市地域福祉活動事例集」に掲載されている「大椎台助け合いの会」の「ゴミ出し」

の活動について当該委員よりご説明いただきたいと思います。

当該委員より「大椎台助け合いの会」の「ゴミ出し」の活動の仕組み、状況について説明後、「ゴミの分別」「資源回収」などについて各委員が意見・情報交換を行った。

また、大椎台自治会では、政令市としては初の試みの「生ゴミ」を分別し、メタンガスを回収するという「生ゴミの分別収集」を１１月から行っているとの説明が当該委員よりあった。

（この活動については、２月６日付けの読売新聞にも掲載されており、事務局より記事のコピーを配布した。）

・議題（４） 福祉活動や各種団体等の実態把握について（資料３）

聴覚（難聴者）障害者について

千葉聴覚障害者センターで主に手話通訳者として活躍されているＴさんと緑区身体障害者相談員のＨ委員の両名からお話をいただいた。

主な内容としては、難聴者同士では手話を使って会話を行うが、相手が健常者の場合、筆談に頼ることになり、結論のみで途中経過が分からず、（ア）判断の間違い（イ）偏った情報（ウ）中途半端な結論、になってしまい、健常者との交流が難しいときがある。耳の不自由な方は、見た目は健常者と変わらないが、情報障害者でもあるため、コミュニケーションや情報が入りにくい。そのため健常者には障害の重さが理解されていない。聴覚障害者は、日本語の文章の表現が手話では難しいと感じている方が多い。そのため筆談では、結論だけが伝わり話の経過がわからない。緊急を要する災害時などは、孤立してしまいがちなので、身振り手振りである程度分かるので、優しく接して欲しい。３月１日より、携帯電話やパソコンのメールで通報できる「メール１１９番」システムがスタートするので安心した生活ができるようになった。

などのお話があった。

委員：近所の人達との交流やコミュニケーションはできているのですか。

講師：交流やコミュニケーションのはかり方は、その人によって様々です。

委員：公共施設などに行く時には、どうやって、自分が聴覚障害者として理解していただいていますか。

講師：事前に要件をメモしておいて、相手に理解していただいています。

委員：自分が障害者であるということを示すバッチなどを作る予定はないか。

講師：そのような予定はない。いざというときには助けて欲しいが、自分が障害者であることを言いたくないという人が多い。

委員：あくまで自分が健常者だから言えることかもしれないが、プライバシーの問題にとらわれることなく、もっと知らせて助けてもらう方がいいのではないかと思います。

講師：N T Tのサービスに聴覚障害者用の「お願い手帳」というものがある。これを出されたときは協力をお願いしたい。

「お願い手帳」耳や言葉の不自由な方やお年寄りの方が、外出先で用件や連絡先などを書いて、近くの人に「私のかわりに電話してください。」などをお願いする時に使用するもの。

委員：手話を覚える場合、単語はいくつくらいありますか。

講師：現在の手話辞典では、約 8 , 0 0 0 語あります。手話は、そんなに難しいものではないので、自治会などで講習会を開いて覚えてみたらいいかがですか。

委員：読唇術（口話）を使用することについては、どう思いますか。

講師：口話は可能ですが、文章は難しいです。やはり手話が一番良いと言われています。

委員：どのくらいの聴覚障害者の方がいるのですか。

講師：緑区では障害者手帳保持者が 2 4 5 名います。お手元の資料 3 を参照して下さい。

委員：災害時などで、健常者にやって欲しいことは何ですか。

講師：紙に書いたり、身振り手振りで表現したりして、その人に合ったコミュニケーションで接して欲しいです。

委員：県内には、聾学校はいくつありますか。

講師：3 ケ所あります。千葉市、館山市、市川市です。

千葉市あんしんケアセンターについて

千葉市あんしんケアセンター「裕和園」センター長 U さん、相談員 K さん、千葉市あんしんケアセンター「千寿苑」センター長 N さんの 3 名から説明をいただいた。

主な内容としては、別添の「パンフレット」を基に高齢者の相談窓口としてのあんしんケアセンターの役割や業務内容、担当地域などの説明があった。

委員：裕和園の「あんしん出前講座」とは何ですか。

説明員：講師を派遣して、介護についての講演などを行っています。

委員：利用者があんしんケアセンターに来所して、良かったと思われる点は

何ですか。

説明員：一概には言えませんが、介護保険の利用や予防、消費者問題、ケアマネジャーからの相談があります。

委員：古い地域は、家族が病気であることを隠したがるもので、なかなか相談しにくいと思うので、是非、PRに努めて欲しい。

説明員：分かりました。あんしんケアセンターについて、委員の皆様からもPRしていただけると助かります。

・議題（４） その他

平成２０年度の委員の選任について

事務局：次年度の推進協議会の委員の選任についてですが、皆様方には是非、引き続き委員としてお願いしたい。また、今年度と同様に、皆様方の団体からご推薦をいただきます。その際は、どうかよろしくお願いします。なお、団体に属さない委員さんにつきましては、３月中に個別に依頼文を発送しますので、よろしくお願いします。
新年度の開催ですが、６月から予定しています。

平成１９年度千葉市地域福祉活動事例集について

事務局（保健福祉総務課）：本市の地域福祉活動を推進するため、「千葉市地域福祉活動事例集」を発行いたします。

この事例集は、市内で実践されている地域福祉活動を紹介するものです。これから新たに地域福祉活動を始めようとする方々（団体）やこれまでの活動をさらに広げようと考えている方々（団体）に、事例から学ぶ地域福祉活動のヒントとしてお役立ていただくことを目的にしています。

冊子の概要は、地域福祉の活動事例を、各区２団体 計１２事例を掲載しております。

社会福祉協議会地区部会が３件、町内自治会等が４件、NPO法人が４件、社会福祉事業者が１件、掲載しております。

３月中旬から配布を開始し、委員の皆さまには、ご自宅へ郵送いたします。

・閉会